

令和3年度 事業実施状況報告書（事業報告書）
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1 会員総会

(1) 令和3年度 定時会員総会

- 1) 日時 令和3年6月16日(水) 午後1時30分
- 2) 場所 全酪連役員会議室 東京都渋谷区代々木1-37-2 酪農会館2階
- 3) 議事
第1号議案
令和2年度事業報告書・貸借対照表・正味財産増減計算書に関する件
第2号議案
令和3年度会費及び賛助会費の額並びに納入方法決定に関する件
第3号議案
任期満了に伴う役員選任に関する件

(2) 令和3年度 臨時会員総会

- 1) 書面決議日 令和3年9月13日(月)
- 2) 議事
第1号議案 欠員理事の選任の件
(砂金甚太郎会長退任・岡田穂積理事退任・隈部洋理事就任・長恒泰治理事就任)

2 理事会

(1) 令和3年度第1回理事会

- 1) 日時 令和3年5月26日(水) 午後1時30分
- 2) 場所 全酪連役員会議室 (酪農会館2階)
- 3) 議事
第1号議案
令和3年度定時会員総会議事に付すべき事項の決定の件

(2) 令和3年度第2回理事会

- 1) 日時 令和3年6月16日(水) 午後2時20分
- 2) 場所 全酪連役員会議室 (酪農会館2階)
- 3) 議事
第1号議案
役員選任に伴う会長(代表理事)、副会長、専務理事(業務執行理事)の選定に関する件

第2号議案

事務局長任命に関する件（7月1日付 岡本尚之）

(3) 令和3年度第3回理事会

1) 書面決議日 令和3年8月27日(金)

2) 議事

第1号議案

令和3年度臨時会員総会(書面決議日は令和3年9月13日)に付すべき事項の決定に関する件(欠員理事の選任)

(4) 令和3年度第4回理事会

1) 日時 令和3年9月13日(月) 午後2時

2) 場所 全酪連役員会議室(酪農会館2階)

3) 議事

第1号議案

会長(代表理事)の選定に関する件(隈部洋会長就任)

(5) 令和3年度第5回理事会

1) 日時 令和4年3月3日(木) 午後1時30分

2) 場所 全酪連役員会議室(酪農会館2階)

3) 議事

第1号議案

令和3年度事業実施状況の報告について

第2号議案

令和4年度事業計画書及び収支予算書について

第3号議案

令和4年度定時会員総会の日時及び場所並びに議事について

3 監事監査(令和2年度末)

(1) 日時 令和3年5月17日(月) 午後1時30分

(2) 場所 酪農会館会議室 東京都渋谷区代々木1-37-2

4 令和3年度事業概況

当協会の令和3年度事業の実施に際して、4月から9月までの間、新型コロナウイルスの感染拡大により、まん延防止等重点措置ならびに緊急事態宣言が断続して発令された。その後、秋には感染が一旦収束に向かったが、令和4年1月以降オミクロン株の感染拡大が続く状況となった。このため、計画していた研修会や会議をweb開催へ変更して実施したほか、酪農ヘルパー専門技術員養成研修の集合研修をはじめ予定された多くの活動が停滞を余儀なくされることとなった。各事業の実施

状況については以下の通りである。

(1)一般事業

1)酪農ヘルパー要員確保と事業の普及推進活動

利用組合の酪農ヘルパー要員の確保を支援するため、当協会のホームページを活用して酪農ヘルパーに関する情報を積極的に発信するとともに、利用組合の要請に基づいて「酪農ヘルパー募集」の求人情報を掲載した。

また、都道府県団体や利用組合の活動に関する情報を提供するため、当協会ホームページに「ヘルパー組合の活動紹介コーナー」を設けて随時更新するとともに、(一社)全国酪農協会が発行する全酪新報、全農酪農経営体験発表会、全国酪農青年女性酪農発表大会及び全国農業新聞などに対して酪農ヘルパーに関する広告を掲載した。

2)会長表彰事業

都道府県団体や利用組合などの推薦に基づき「ヘルパー事業に貢献した団体や優れた技術を持つ酪農ヘルパー等」に対して、毎年12月に開催する酪農ヘルパー事業中央研究会のなかで会長表彰を実施している。昨年度はコロナ禍の影響によって中止となったが今年度は2年分の表彰をweb形式で実施した。技術に優れ功績が認められた酪農ヘルパー(24名)、農林水産祭等において意見発表を行った酪農ヘルパー(1名)がそれぞれ表彰され、その模様はYouTube動画として編集し当協会ホームページから一定期間視聴できるようにした。

3)会員団体等との事業活動連携

ア. 会員団体等が主催する研修会や会議に対して職員などを講師派遣し、酪農ヘルパー事業に関わる情勢報告やヘルパー要員確保などに関する意見交換を行っており、今年度は以下の3カ所への講師派遣を実施した。

- ① 11月10日 農林水産省 中央畜産技術研修会 (参加者45名)
- ② 12月15日 秋田県酪農ヘルパー研修会 (参加者27名)
- ③ 3月11日 新潟県酪農ヘルパー技術研修会 (参加者11名) web開催

イ. 会員団体などに対して、酪農ヘルパー事業の推進情報として「メールマガジン」を定期的に発信した。

ウ. 12月8日に開催した酪農ヘルパー事業中央研究会の内容を中心に、今年度の活動を「酪農ヘルパー情報」にまとめ、年度内に発刊した。

エ. 酪農ヘルパーへの就業促進に資するため、利用組合等が主催する学生インターンシップ受入時の「PCR検査費用」を支援し、検査実施人数は5組合・75名(325千円)となった。

4)酪農ヘルパーの養成活動

3年以上の経験を有する酪農ヘルパーを対象に「酪農ヘルパー中級者研修(北海

道農業協同組合学校)」を計画したものの、オミクロン株の感染拡大を受けて直前で中止した。

5) 業務中の傷害時補償制度の推進

臨時ヘルパーの出役中(往復途上含む)の事故傷害に対応するため「臨時酪農ヘルパー傷害保険(普通傷害)」の加入手続き及び加入促進を図った。

| 参加 都道府県数 | 利用組合数 | 加入 ヘルパー人数 | 保険料実績 総額(千円) |
|-------------|-------|--------------|-----------------|
| 38 | 206 | 634 | 2,145 |

6) 酪農技術養成研修時の傷害保険料の補助(当協会主催に限る)

研修期間中の事故傷害や損害補償に対応するため、国内旅行傷害保険に加入し保険料については全額当協会が負担している。今年度はコロナ禍などの影響により酪農体験実習(1名)のみの実施にとどまった。

(2) 酪農経営支援総合対策事業「酪農経営安定化支援ヘルパー事業」

(独立行政法人農畜産業振興機構 公募事業)

酪農ヘルパー要員の確保育成、酪農家の傷病時利用の負担軽減及びヘルパー利用組合の組織強化など、酪農ヘルパー制度を総合的に推進し、持続可能なゆとりある酪農経営に資する目的で以下の事業を推進した。

1) 酪農ヘルパー利用実態調査の実施

酪農ヘルパー制度の充実を図るため、令和3年8月1日現在の酪農ヘルパー利用組合の事業概況及び令和2年度の酪農ヘルパー利用実績に係る調査を実施した。この結果は速報値(未定稿)として12月に発信し、確定値については「酪農ヘルパー利用に関する資料(冊子)」としてまとめ、会員、都道府県団体、利用組合及び関係機関に対して3月に配付した。

2) 酪農ヘルパー事業の広報活動

当協会のホームページでは「酪農ヘルパーの具体的な仕事内容」や「就業に至る流れなど」を紹介するとともに、各地の酪農ヘルパー募集情報や学生インターンシップの受入情報などについても発信している。また、酪農ヘルパー要員の確保や職業認知度の向上に資するため、学生インターンシップの募集ポスターを作成し各地の農業大学校や動物関連専門学校など約120先に配付した。

メディアへの対応としては、酪農ヘルパーの職業認知度向上の一環として、農業スタイルの多様化に伴い、特に若年層のアクセス数が期待できる農業系メディアサイトに記事広告として掲載するとともに、酪農ヘルパーの募集支援活動として、農業の魅力と仕事を紹介する「新農業人フェア(6月東京国際フォーラム・9月池袋サンシャインシティ・11月大阪ハービスホール・1月池袋サンシャイン

シティ)」へ出展した。

3) 人材コンサルタントを活用したヘルパーの採用・定着の促進

酪農ヘルパー要員の確保と定着化に資するため、昨年度に続き、今年度は3利用組合に対するコンサルティングを実施した。事業内容は「酪農ヘルパーの新規採用と定着化に関する具体的課題の抽出⇒課題解決の実行計画の策定⇒計画の実施と評価」について取り組んだ。

4) 酪農ヘルパー専門技術員養成研修(初任者研修)の実施

搾乳を中心とする酪農家作業の代行業務や新規就農などに向けた技能の蓄積及び向上に資するため、例年、全国7か所の学校や研究(実証)農場等に委託し「酪農ヘルパー専門技術員養成研修(集合研修)」を実施しており、年間100名前後の酪農ヘルパーが参加している。

養成研修の内容は、酪農情勢・搾乳管理技術(泌乳生理)・コミュニケーション能力アップ・牧草の知識と飼養管理・繁殖管理・哺育育成の技術・疾病及び防疫・食品衛生・生乳の流通など、酪農ヘルパーとして必要な基礎知識や専門技術の習得を目的に「1週間コース・2週間コース」に分類して実施している。

今年度は、コロナ禍の影響から昨年度に引き続き、酪農学園大学(北海道江別市)教授陣の協力を得て作成した研修用DVDによる「視聴研修」を実施し、64名が受講した。なお受講修了者には「修了証書」を発行した。

【酪農ヘルパー専門技術員養成研修委託団体】

一財)北海道農業協同組合学校(北海道江別市)

独法)北海道立総合研究機構 畜産試験場(北海道新得町)

独法)北海道立総合研究機構 酪農試験場(北海道中標津町)

ホクレン農業協同組合連合会 農業総合研究所 訓子府実証農場(北海道訓子府町)

一財)蔵王酪農センター(宮城県蔵王町)

全国酪農業協同組合連合会 酪農技術研究所(福島県矢吹町)

公財)中国四国酪農大学校(岡山県真庭市蒜山)

【体験実習受入団体】

公財)キープ協会高冷地実験農場(山梨県北杜市)

JA 全農長野 八ヶ岳牧場(長野県南佐久郡)

(順不同)

5) 優良事例発表会の開催

当協会では酪農ヘルパー事業の普及・啓発を図るため、優良事例を紹介する「酪農ヘルパー事業中央研究会(優良事例発表会)」を平成14年度から実施している。

昨年度はコロナ禍の影響でやむを得ず中止したが、今年度は感染対策のためweb配信により開催し、113名の参加を得た(会場、配信の計)。事例発表として「酪農ヘルパー利用組合における酪農ヘルパーの新規採用と定着化等に係る取組

事例(人材コンサルタント)」及び「酪農ヘルパーからの新規就農事例」として北海道浜中町の松岡慶太(まつおかけいた)様と天川暁誠(あまかわあずみ)様がそれぞれ発表した。さらに新規就農に関連して「全酪アカデミー事業(全酪アカデミー事務局)」 「新規就農プラットフォームの構築(中央酪農会議)」について発表した。この模様はYouTube 動画として編集し、当協会ホームページから一定期間視聴できるようにした。

6) 学生インターンシップ(全国型)

酪農ヘルパーの職業認知度の向上やヘルパー要員の不足解消のため、職業選択肢の拡大を図る目的で複数の獣医畜産学系大学に案内し、独立行政法人家畜改良センターの協力を得て、平成 29 年度から 1 週間程度の「学生インターンシップ研修(人数制限あり)」を実施している。しかしながら昨年度に引き続き、今年度においても新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

7) 中堅酪農ヘルパーの指導力向上研修の検討

酪農ヘルパー制度の機能を充実させるためには、専門技術と確かな経験を備えた「中堅酪農ヘルパー」の役割が欠かせないことから、中堅酪農ヘルパーの指導力向上を目的とする「研修会の開催」に向けて、検討会を実施した。

5 会員の動向 (令和 3 年度)

| 区分 | 会員 | | | 賛助会員 |
|----|------|--------|----|------|
| | 中央団体 | 都道府県団体 | 合計 | |
| 期首 | 13 | 44 | 57 | 12 |
| 期末 | 13 | 44 | 57 | 12 |
| 増減 | 0 | 0 | 0 | 0 |

6 職員の動向 (令和 3 年度)

| 区分 | 職員(受入出向含む) | 臨時職員 | 合計 |
|----|------------|------|----|
| 期首 | 4 | 0 | 4 |
| 期末 | 3 | 2 | 5 |
| 増減 | △1 | +2 | +1 |

(末日付けの退職者は本年度減少に含む)